

平成30年10月20日（金）  
本荘高等学校定時制課程創設七十周年記念式典式辞

秋田県立本荘高等学校 校長 今井 智幸

秋空に一層際立つ鳥海はその裾野を美しい紅葉に染まらせ、澄み切った子吉川の川面は穏やかに流れ、ここ鳳山兎水の地にも秋の深まりが感じられる時節となりました。

今日のお祝いの日にあたり、

秋田県教育庁 教育次長 太田 政和 様

秋田県定時制通信制 教育振興会会長 竹下 博英 様 をはじめ、

多くの御来賓の皆様と定時制課程関係者の方々の御臨席を賜り、秋田県立本荘高等学校定時制課程創設七十周年記念式典が執り行われますことに、心からお礼申し上げます。

秋田県立本荘中学校が秋田県立本荘高等学校と改称された昭和二十三年の、六月二十六日、本荘高校内に定時制課程中心校が創設され、普通科、農業科、商業科、家庭科の四学科でスタートしました。そして、この中心校併設を皮切りに、この年早くも、亀田、象潟、下川大内、平沢、金浦、石沢、下郷、岩谷と、当時由利本荘市もまだ本荘町だった由利郡町村に分校が続々と産声を上げます。二期生、三期生を迎えた頃は、生徒数も全体で六百名を超える規模となっています。この定時制分校の設置から財政的援助まで担っていたのは、当時の郡内町村です。「定時制は県立高校ではあっても、設置町村の支援なしには存続どころか、誕生すらできなかった」と、『本荘高校八十年史』に記されています。本校定時制には、当時の地元町村の人々の大きな期待と揺るぎない熱意によって誕生した歴史があります。

第一回卒業式が行われた昭和二十七年、定時制を支援するPTA、同窓会、設置町村の他に、定時制課程を守り育てることを目的として、定時制教育振興会が設立されます。関係の町村長、同教育委員長・議会議員、地元県議会議員、由利教育事務所所長、生徒勤務先代表らで構成され、定時制の学校運営を全面的、強力に援助します。そして、時代の変遷、趨勢の中で、分校の統廃合や学科募集停止を経て、現在に至ります。この七十年の歩みの中で、本校のように定時制課程が、同じ一つの学校に一貫して存続しつづけたケースは、県内でも稀です。これまで本校定時制は、時代の教育的使命と地域の期待に応えながら、卒業生は二千六百名を超え、県内外はもとよりグローバル社会で活躍する有為な人材を数多く輩出してきました。

これまで、全国定通高校総体で、柔道個人二連覇やバスケットボール競技で二度のベスト16など、輝かしい実績がありましたが、今年は、全県定通高校総体で、軟式野球が初優勝、全国定通高校総体の剣道女子個人で 鈴木 蓮華さんが三位となる活躍をしています。在校生は、仕事と勉学の両立を図りながら、なべっこ遠足・ミニ縁日等で保護者と親睦を図り、ボランティア・文化祭でゆり支援学校と交流を深めるなど、高校生活を彩り豊かにしています。

これからの若者が社会で活躍する未来は、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境が大きく、急速に変化し、予測困難な時代とされています。また、急激な少子高齢化が進み、成熟社会を迎えるにあたって、一人一人が持続可能な社会の担い手として、新たな価値を生み出していくこと、そしてふるさと秋田では、地域の未来を拓き、担う若者の育成が期待されています。

創設以来今日まで、働きながら学ぶ「働学一体」の理念は、脈々と受け継がれています。また、昨年度以来、全日制課程と定時制課程に共通する、

1 教育活動全体を通じて、未来を切り拓く人間力や社会に貢献する人材を育成する

2 キャリア教育の充実の下、志高く自己実現を果たそうとする態度を育成する

という、本校の教育方針の下、働きながら学ぶ生徒の教育の場として、また、多様な学習ニーズに応える場として、生徒一人一人の学びや自立を支援する教育活動の一層の充実・発展に努めてまいります。

結びに、創設以来これまで多くの関係者の皆様に賜りました御理解、御支援に心から感謝を申し上げますとともに、本校定時制課程の継続、発展のために、これまでと変わらない御指導、御協力をお願い申し上げます、式辞といたします。